

2013 年度（対象年度：2012） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
43	教育方法

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:あまり実行していない」「D:実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
431	教育方法および学習指導は適切ですか。	①「学生に保証する基本的な資質」の修得を促進する教育方法を採用していますか。【※どのように】	B	B
		②単位の実質化を図るため1年間の履修登録制限単位を適切に設定していますか(50単位未満)。	B	
432	シラバスに基づいて授業が展開されていますか。	③教育課程編成・実施の方針を視野に入れてシラバスを作成していますか。	C	C
		④授業がシラバスどおりに行われているか組織的に検証を行っていますか。【※どのように】	C	
433	成績評価と単位認定は適切に行われていますか。	⑤シラバスに掲げている「到達目標」に基づき、成績評価がなされていますか。	B	B
		⑥成績評価の適切性を組織的に確認していますか。【※どのように】	B	
		⑦既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。	A	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

- ①「学生に保証する基本的資質」の修得に向け、授業形態（講義・演習・実験等）を区分けし、受講者数の制限を行い、かつ授業形態に見合った教室（語学教室・演習室・情報実習室等）を割り振っており、シラバスに講義方法を記載し、学生に明示している。しかし、教養教育に関しては、幅広い分野の科目を配置しているものの、これらの履修の選択は学生に委ねられており、問題である。
- ②単位制の実質化の観点から、各学部はキャップ制を導入し、セメスター毎に履修できる単位数の上限を設定し、履修要項で明示し、履修説明会で学生に周知している。しかし、一部の学部のキャップ制で、50単位以上の設定があり、適切性の検証が課題である。
- ③「教育課程編成・実施の方針」とシラバスがどのように関連づけられているかは、各学部の編成に委ねられているのが実態である。これらの関連がシラバスに示されていることはなく、学生が理解することは困難である。
- ④毎年2回（各期1回）実施する「授業アンケート」の結果では、約70%の学生からシラバスに基づく授業が実施されているとの回答がなされており、概ねシラバスに基づいて授業が実施されている。しかし、これらの問題は個人の教員にフィードバックされるのみであり、組織的な検証には至っていない。
- ⑤⑦成績評価方法・基準に基づき、科目担当者がシラバスに公表する評価方法により厳格に成績評価がなされている。しかし、履修要項に示した基準と厳密に言えば差異がある。シラバスにおいては、平常点による評価がなされ、その中に出席点が含まれている場合もあり、それが、適切に成果を反映しうるものなのか、検証することが必要である。
- ⑥成績疑義の申立制度を設けることにより、評価の客観性を担保している。教養教育科目の内、「初修外国語科目」

では、採点会議を開催し組織的に成績評価を確認したり、「仏教の思想」では、科目担当者会議において、成績評価に係る共通事項の確認を実施している。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

- ・現状説明では「教育理念・目的」の達成に向け」となっているが、ここでは、DP に含まれる「学生に保証する基本的資質」を教育目標と捉えて記述し直していただきたい。【留意点】
- ・シラバスの記載内容は教員個人に任されているのが現状であり、記載内容を組織的に点検する体制については、各学部・研究科でかなり相違がある。少なくとも教務委員会レベルで記載内容を点検する仕組みを構築していただきたい。【留意点】
- ・シラバスに基づく授業の実施について、「授業アンケート」は一つの指標なので、これのみによって判断することはできないため、授業開始後の WEB シラバス更新状況などをもとに、検証していただきたい。【留意点】
- ・3 割の学生が「シラバスに基づく授業が実施されている」と答えていない原因の検証。【留意点】
- ・シラバスの記載内容（特に「成績評価の方法」や基準）を組織的に点検する体制の構築【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・「授業アンケート」をはじめとする授業改善に向けた様々な取り組みについて、組織的に検証できる仕組みを構築できていない。このため、大学教育開発センターで検討が進められている学生と教員の教育に関するツールの一本化を目的とした「Web 履修登録・Web シラバス・授業アンケート機能を包括した『学修記録の構築』」に向けて、組織的な検証を可能とする制度に改善する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
431・432・433	シラバス
431・432・433	履修要項
432	学生による学期末の授業アンケート報告書【2012 年度版】
433	龍谷大学学則第 38 条、第 39 条

II. 評価結果

総評

教育方法および学習指導については、概ね適切に行われていると判断できるが、教養教育の教養科目（プログラム）の改善については、教養教育センターの設立にともなうカリキュラム改革の中で進めていただきたい。また、一部の学部のキャップ制で、50 単位以上の設定がある点については早急に改善していただきたい。

「教養教育に対する履修の選択は学生に委ねられており、問題である」との記述があるが、問題の理由が何なのか読み取ることができない。履修分野が分散してしまうことにより、「学生に保証する基本的資質」を実現できないことなのか、その理由を明確にした上で必要な改善策を検討していただきたい。

「学生に保証する基本的な資質」の修得を促進する教育方法については、シラバスの授業時間外の学習についての記述を充実させるなどさらなる工夫が必要である。

シラバスについては、まずは各教学責任主体で責任を持って内容の確認を毎年度行う仕組みを早急に構築して

いただきたい。教育は組織で方針に基づいて行うものであるので、シラバスが完全 WEB 化された状況において、各教員が記載した内容が何ら点検されずに、直接、学生や社会に発信されることの無いように組織的に進める必要がある。こうすることによって、DP・CP と各科目のシラバスの到達目標との関係や成績評価の適切性に関する組織的な検証も進むと考えられる。

また、本学にはシラバスの位置づけや役割を明文化したものがないので、大学教育開発センターを中心に策定していただきたい。

伸長すべき点(長所) 《箇条書き》

特になし

改善すべき点 《箇条書き》 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

- ・教養教育の教養科目(プログラム)の改善については、教養教育センターの設立にともなうカリキュラム改革の中で進めていただきたい。【留意点】
- ・「学生に保証する基本的な資質」の修得を促進する教育方法については、シラバスの授業時間外の学習についての記述を充実させるなどさらなる工夫が必要である。【留意点】
- ・シラバスについては、まずは各教学責任主体で責任を持って内容の確認を毎年度行う仕組みを早急に構築していただきたい。シラバスが完全 WEB 化された状況において、各教員が記載した内容が何ら点検されずに、直接、学生や社会に発信されることの無いように組織的に進める必要がある。【努力課題】
- ・本学にはシラバスの位置づけや役割を明文化したものがないので、大学教育開発センターを中心に策定していただきたい。【努力課題】

※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要